

## 『残雪と春の気配』・・・季節を想う

グラウンドの片隅（バックネット周辺）には、2月10日（木）の午後から降った雪が未だに残っています。前面のバックネット、背面は道路、そして山に囲まれた環境で、日当たりの悪さを象徴している箇所です。そんな光景を目にすると、春の到来はまだまだ先のような気がしますが、春の気配は感じるがあります。一番に感じるのは、日の長さです。17時を過ぎると外はかなり暗かったのが、今では明るさが残るようになりました。

また、『三寒四温』とまではいきませんが、寒さの緩みを感じる日が増えてきています。（現状を表現すれば、まだ『五寒二温』という程度でしょうか。）

さらに、グラウンド周辺の草木も単色で寂しい感じを漂わせていましたが、鮮やかな緑色の芽吹きが見られるようになりました。

着実に春が近づいてきています。

今週土曜日（19日）は、二十四節気の中の『雨水』にあたります。『雨水』とは、空から降るものが雪から雨に変わり氷が溶けて水になる。草木が芽生え始める。昔から農耕の準備を始める目安とされてきた日です。

今よりも昔の方が季節についての感覚も敏感で、生活にも密接に結びついていたことから、季節の変化は切実なものであったと思います。

今は昔ほど季節の変化に切実感を抱くことは少ないかもしれませんが、外の景色をじっと眺める、季節の移り変わりに敏感になることは大切にしたいです。忙しくしていると視野が狭くなり、気づきが少なくなります。自然に目を向け、例え小さくても気づきが見つかれば、緊張もほぐれ疲れも和らぎます。

コロナ禍による閉塞感、疲弊感が充満している昨今だからこそ、日吉の豊かな自然に目を向けることが大切だと思います。



【バックネット周辺の残雪】